

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	INEI加盟大学と連携した授業研究・平和教育セミナー（2）： 「PELSTE2021」の実施計画
Author(s)	草原, 和博; 松宮, 奈賀子; 三好, 美織; 小山, 正孝; 川口, 広美; 金, 鍾成; 岩田, 昌太郎; 丸山, 恭司; 吉田, 成章; 桑山, 尚司
Citation	広島大学教育学部共同研究プロジェクト報告書, 19 : 25 - 32
Issue Date	2021-03-19
DOI	
Self DOI	10.15027/50585
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00050585
Right	
Relation	



INEI 加盟大学と連携した授業研究・平和教育セミナー（2）

－「PELSTE2021」の実施計画－

研究代表者	草原 和博（社会系コース）
研究分担者	松宮奈賀子（初等教育教員養成コース）
	三好 美織（自然系コース）
	小山 正孝（数理系コース）
	川口 広美（社会系コース）
	金 鍾成（社会系コース）
	岩田昌太郎（健康スポーツ系コース）
	丸山 恭司（教育学系コース）
	吉田 成章（教育学系コース）
	桑山 尚司（グローバル教育コース）
研究協力者	宮本 勇一（教育ビジョン研究センター）
	小松真理子（教育ビジョン研究センター）
	草原 聡美（教育ビジョン研究センター）

I 研究の背景と目的

本研究グループは、広島大学インキュベーション研究拠点「教育ビジョン研究センター（Educational Vision Research Institute: EVRI）」の構成員として、国内外の研究者・異分野の研究者と連携し、研究拠点の確立と次世代の教育のデザイン・提案・構築に取り組んできた。

本プロジェクトでは、教育学部が 2019 年に加盟した International Network of Educational Institutes (INEI) との連携を実質化するために、教育ビジョン研究センターとして加盟大学との交流プログラム（以下「セミナー」と称する）を開発し、実行することを目的とする。セミナーの成果に基づいて、研究者の国際的ネットワーク化及び国際共著論文の執筆につなげることを最終的な目的とする。

本教育学部が、日本の加盟代表大学として、また広島に拠点を置く大学として INEI に貢献しようとするとき、他大学にはない広島大学ならではの「強み」を発揮することが期待される。EVRI において組織特性と研究業績を精査した結果、その強みを、①被爆地としての広島が培ってきた「平和教育」、②日本の教育文化を基盤に構築され世界的に展開されてきた「授業研究」、③本研究科博士課程の修了生が日本の高等教育界で実質的に担ってきた「教師教育者」、これら 3 点に発信と交流の可能性を求めることとした。この構想に基づいて、2020 年 1 月には、第 1 回の“Peace Education and Lesson Study for Teacher Educator 2020”略称 PELSTE2020 を開催することができた。

翌年度には PELSTE2021 の企画を予定していたが、COVID-19 の影響で外国人の入国の支障が予想された。そこで共同研究プロジェクト申請時の段階で、2021 年度は「オンライン」での PELSTE2021 の開催に切り替えることを決断した。それを受けて、本年度は以下の 3 点を実施することとした。

- I. 初年度の成果を活かし、以下の点に関する理解の再構築を意図したオンラインセミナー用の動画コンテンツ、ハンドブックおよび交流プラットフォームを開発する。
 - ・ヒロシマの授業研究の歴史と新たな試み
 - ・ヒロシマの平和教育の歴史と新たな試み
 - ・各大学における授業研究の理解と各国の専門性開発のための授業研究の取組
 - ・各大学における平和教育の理解と各国の博物館等を活用した平和教育の取組
- II. 加盟大学よりセミナーへの参加希望者を募り、セミナーを開催する。
- III. 参加者への質問紙調査及び聞き取り調査に基づいて、①セミナーの満足度を評価する。また②セミナーの参加者は、「授業研究」「平和教育」の意味・意義をどのように理解していたか、③セミナーでの学びを通してそれはどのように変化したかを明らかにする。
- IV. 本成果を学術雑誌に投稿する。

PELSTE2021 は 2021 年 3 月 20 日と 21 日に開催予定のため、本報告書の執筆時点では上の III. IV. について報告できない。そこで本稿では I. II. の論点に絞って、PELSTE2021 の実施に向けたシステム構築を概略したい。

(草原和博*)

II PELSTE2021 計画と実施

1. セミナーの目的と参加者の選考

EVRI は、PELSTE2021 の目的を、昨年と同様に、大きく以下の 3 点に設定した。

第 1 に、広島県の「平和教育」「授業研究」「教師教育（者）」を紹介し、自国の制度または自己の研究対象との比較考察の対象にしてもらうこと。第 2 に、広島大学の研究者と PELSTE の参加者で「平和教育」「授業研究」「教師教育（者）」をテーマに意見交換し、研究者ないしは専門職としての知見を深めること。第 3 に、国際共同研究のシーズ発掘や研究上のマッチングをはかることである（草原、木下、松宮ほか、2020）。

これらの目的を受けて、以下の手続きで参加者を選考した。

2020 年 12 月 1 日、日本の「平和教育」「授業研究」に関心を持つ「教師教育者」（大学生・大学院生）で、PELSTE2021 への参加を希望する大学教員と大学院生を推薦してほしい旨、INEI 加盟大学に向けて公募を送付した。今年度はオンライン環境でのセミナー開催を想定して、セミナーを「平和教育」部門と「授業研究」部門に二分割することとした。加盟大学には、エントリーする申請者の氏名と希望部門、および応募者本人の略歴と管理職による推薦書の提出を求めた。

期限までに 6 名の応募者を得た。選考にあたっては昨年度と同様の規準を適用した。審議の結果、オンラインセミナーは広島大学側の経済的負担が小さいことに鑑み、表 1 に示すように 6 名を採用とした。エントリー部門の内訳は、「平和教育」部門に 4 名、「授業研究」部門に 3 名だった。なお、1 名は重複応募のため、当該応募者には専門性や経歴を考慮して、授業研究部門に参加してもらうこととした。属性で見ると、大学教員 3 名（1 名は実務家教員）、大学院生 3 名であり、多様な教師教育者とその卵が集うこととなった。

PELSTE2021 では、オンラインの特性を活かして、participant（参加者）と audience（参観者）の 2 つの参加方法を用意した。

「参加者」とは、PELSTE の目標と活動に直接的にコミットする、セミナーの主たる発表者である。セミナー終了後にはレポートの提出を求めると同時に、将来の広島訪問の招待状を兼ねた Certificate が授与される特典が用意される。

「参観者」とは、INEI 加盟大学を中心に（海外の研究交流協定校等を含む）、セミナーの視聴を希望している研究者である。オンライン会議アプリが許す範囲で人数は制限せず、受け付けることとする。基本的には広島大学の認知度を高めることがねらいであり、広く参加を募り、平和教育や授業研究における EVRI の拠点性を強化、宣伝する場としたい。なお、参観者には、セミナーの事前・事後には（後述する）セミナー資料を閲覧できるとともに、セミナー当日には質疑に参加することのできる権利を付与することとする。

表 1 PELSTE2021 の参加者

参加部門	所属	立場
平和教育	Seoul National University (韓国)	Assistant Professor, Comparative International Education and Peace/Development Studies
	Ontario Institute for Studies in Education, University of Toronto (カナダ)	PhD Student of Higher Education, Collaborative Specialization in Comparative, International & Development Education
	University of Wisconsin-Madison (米国)	Graduate Student in the Department of Curriculum & Instruction
授業研究	Faculty of Education of the University of São Paulo (ブラジル)	Associate Professor, Head of Department of Teaching Methodology and Comparative Education (EDM)
	The National Institute of Education, Singapore, NIE (シンガポール)	Doctor in Education (EdD)
	University of Wisconsin-Madison (米国)	Faculty Associate in the Department of Curriculum & Instruction

2. セミナーの内容

PELSTE2021 の目的を達成するために、以下のオンラインセミナーを企画した。6名の参加者には、各部門のテーマに沿ってカントリーレポートを依頼し、その後に展開される意見交換やワークショップの口火とすることを企図した。

「平和教育」部門

(1) 議論のテーマ

- ① 広島では、平和を、何のために・どのように教えてきたか。
- ② あなたの国・地域の仲間は、平和を、何のために・どのように教えてきたか。
- ③ 私たちは、平和をいかに規定し、何を目指して教育するべきか。

(2) 日時

2021年3月20日：22:00-23:30（日本時間）

司会・進行：丸山恭司，川口隆行，桑山尚司ほか

運営：草原和博，草原聡美，小松真理子，宮本勇一，宇ノ木啓太ほか

「授業研究」部門

(1) 議論のテーマ

- ① 広島では，授業研究を，何のために・どのように行ってきたか。
- ② あなたの国・地域の仲間は，授業研究を，どのように受けとめ，実践してきたか。
- ③ 授業研究の強みとは何か，どのような新たな展開が見込まれるか。

(2) 日時

2021年3月21日：22:00-23:30（日本時間）

司会・進行：吉田成章，金鍾成，桑山尚司ほか

運営：草原和博，草原聡美，小松真理子，宮本勇一，宇ノ木啓太ほか

各部門のテーマは大きく3つで構成される。①広島（日本）の平和教育と授業研究について情報を共有すること，②①を鏡として，各国の平和教育と授業研究の動向を調査し，報告してもらうこと，③①②を踏まえて，平和教育と授業研究の多様な意味づけと共通の特質を見出し，将来の可能性について共通理解を構築すること，これらを意図していた。

この目的を達成するために，次の2つの方略を採った。

1つは，セミナー当日に向けた参加者相互の事前交流である。セミナーのねらいを確認するとともに，人間関係づくりを目指した。本稿の執筆時点では未実施のため，詳細はホームページ等での報告に譲る。

2つは，事前学習のための資料収集の作成である。とくに上のテーマ①を達成するための教材づくりを行った。動画コンテンツとPDF化されたハンドブックが主であり，PELSTE2021の参加者に限らず，広く広島（日本）の平和教育と授業研究についてEVRIの成果物としてホームページで公開することも意図して開発されている。

（草原和博*・宮本勇一）

Ⅲ セミナー資料の開発

1. 平和教育

「平和教育」部門の参加者のために開発された資料は，以下の通りである。動画は日本語ベースで作成し，YouTubeで公開する。ただし，英語の字幕を付した。

① 「ヒロシマの平和教育者へのインタビュー」

- ・ File 1 森下弘（25分）
- ・ File 2 多賀俊介（33分）
- ・ File 3 野元祥太郎（27分）

② 「ヒロシマの平和教育者へのインタビューに対する有識者コメント」

- ・ File 1 川口隆行（16分）

- ・ File 2 丸山恭司（7分）
- ③ 「HiGA（広島県立広島叡智学園）平和教育への挑戦」
 - ・ 教科書プロジェクトーアメリカの子どもとヒロシマの教科書を作ろう（8分）
 - ・ 概念プロジェクトー専門家の考えを学ぼう（8分）
 - ・ 博物館プロジェクトー世界の博物館展示を批評しよう
 - ・ 総合プロジェクトーHiGA ミュージアムを作ろう（上と併せて5分）
 - ・ ギャラリートークーHiGA ミュージアムを紹介しよう（28分）
- ④ 参考文献一覧

①は、広島の平和教育を担った、世代を異にする3名の（元）教師への聞き取り記録である。以下の5点を共通に聞き取り、そこから話題を広げていく手法を採った。

- ・ あなたが教職を目指したきっかけをお聞かせください。
- ・ あなたは教師として「平和」「広島」をどのように教えてきましたか。
- ・ 「平和」「広島」を教える上で特に大事にしてきたこと（ねらい）と、それを教える上での困難と励みを教えてください。
- ・ ご自身の視点から見て、「広島の平和教育」とは何だったのでしょうか。
- ・ 世界の教育者に向けてメッセージをお願いいたします。

インタビューを試みた小松は、3者の位置づけを表2のように説明している。今回は広島市・被爆との空間的、社会的、世代的な距離と学校種の多様性に配慮して選定を試みた¹⁾。

表2 「ヒロシマの平和教育者へのインタビュー」への協力者

氏名	森下 弘	多賀 俊介	野元 祥太郎
年齢	90歳	70歳	29歳
出身地	広島市	呉市	鹿児島市
勤務年数	30年以上 退職後20年以上	30年以上	7年
学校種	県立高校 国立・私立大学	広島市の 私立中・高等学校	広島市立の小学校 (現在2校目)
専門	書道・国語科	地理・公民科	初等教育・社会科
主な 平和教育 への関与	被爆証言 原爆と戦争に関する 高校生の意識調査 NGO主催の世界平和 教育使節団に参加 広島高教組・平和教育研 究所で教材作成・ 図書編纂	中高一貫校での 平和教育の カリキュラム作成 広島・沖縄等の フィールドワーク 同和教育担当	平和教育実践推進校での 被爆樹木の調査 はだしのゲンの青麦を 校舎屋上で栽培 市内NGOと協働で 紙芝居上演 ルワンダの学校と交流 人権教育担当

(小松真理子氏作成のメモ、年齢や勤務年数は2021年現在)

②にコメントを寄せた川口は、3者の取組について、森下を「広島と原爆の教育」、多賀を「広島と原爆から繋がる平和教育」、そして野元を「広島・原爆から平和を問う教育」と性格規定している。

③の内容構成を支える理論は、Kim & Kusahara (2020) 及び金 (2020) で紹介している。成果の一部は、草原・守谷・小栗ほか (2021) を参照されたい。本カリキュラムは、学校という場を、従来のヒロシマと原爆の記憶を継承させる装置に留めるのではなく、ヒロシマを通して記憶されるべきことを他者との対話を通して再構築する公共圏に代えるべきことを提起したものである。教科書と博物館という集団の集合的記憶が明示的に投影される語りに注目させ、その語りを科学的な概念分析を踏まえ、今を生きる子ども自身が語りなおす経験を提供しようとする点に特質がある。

④には、セミナー参加者と参観者が①②③④の理解を深めるのに有用な文献をリストアップした。

このように「平和教育」部門の資料は、①と②で1950年代から2010年代にかけての平和教育の歴史を(元)教師のオーラルヒストリーを通して概観する、また③の実践記録を通して、平和教育の新たな展開を例示できるように構成した。

2. 授業研究

「授業研究」部門の参加者のために開発された資料は、以下の通りである。動画については、EVRIの定例セミナー記録を基にそれを編集し、YouTubeで公開した。平和教育と同様に、英語の字幕で内容を理解できるようにしている。

- ⑤「学校の中と外の授業研究」(2020年12月28日第62回定例セミナー)
 - ・Part 1 岩田昌太郎, 三好美織ほか (33分)
 - ・Part 2 指導助言とは, 教師教育者とは (15分)
- ⑥「授業研究による教師教育」(2021年1月14日第63回定例セミナー)
 - ・Part 1 金鍾成, 吉田成章ほか (26分)
 - ・Part 2 授業研究の射程とは, 教師の専門性とは (8分)
- ⑦「授業研究による教員養成」(2020年2月第65回定例セミナー)
 - ・Part 1 川口広美, 間瀬茂夫 (16分)
 - ・Part 2 自己をリフレイムするとは, 宮本浩治 (20分)
- ⑧「教師教育者とのための授業研究マニュアル」
 - ・英語版 Lesson Study Manual for Teacher Educators : International Edition (41頁)
 - ・西語版 Manual Internacional de Estudio de Clase para Formadores de Maestros (54頁)
- ⑨ 参考文献一覧

⑤⑥⑦は、2021年に出版予定の *Lesson Study-based Teacher Education: The Potential of the Japanese approach in global setting* (Kim, Yoshida, Iwata, & Kawaguchi, 2021, New York: Routledge) 執筆者らによる「授業研究」の解説集である。⑤では授業研究の諸類型とその具体を概略し、⑥では教師教育と授業研究の密接な関係を述べる。そして⑦では教員志望者を対象とした授業研究の意味をより深く議論している。各回のPart1では、著者の専門領域に基づいて基

調提案風の情報提供と概念解説を行い、Part2 では具体的な論点を設定した提案者相互の意見交換、あるいはゲストを招いての対談が行われる。これら3点の動画で広島（日本）の授業研究の特質を概観させることが意図されている。

⑧は、広島大学がドミニカ共和国のサントドミンゴ自治大学と連携して開発した授業研究マニュアルの復刻版である。⑤⑥⑦で提案される授業研究を、実際に運用するにあたっての理念と手続きが定式化されている。英語版とスペイン語版を用意し、INEI 加盟の大学で広く活用してもらうことも企図した。なお、本マニュアルは、EVRI 研究プロジェクト叢書²⁾のNo.2 からNo.4 として、広島大学の学術情報リポジトリでも閲覧できる。

⑨には、セミナー参加者と参観者が⑤⑥⑦⑧の理解を深めるのに有用な文献をリストアップした。

このように「授業研究」部門の資料は、⑤⑥⑦で授業研究の具体像と教師教育から見た可能性を、広島大学の教師教育者・研究者の経験を交えて概観する。また⑧のマニュアルを通して、授業研究の意味を世界各地の文脈に応じて精査し活用できるように構成した。

(草原和博*・小松真理子*)



図1 日本語、英語、スペイン語版の「教師教育者のための授業研究マニュアル」

IV PELSTE2021 の開催に向けて

今回の共同研究を通して、当初意図した PELSTE2021 向けの動画コンテンツ、ハンドブックおよび交流プラットフォームを開発することができた。今後はオンライン環境での国際セミナーの運用方法を確立することが、実務上の課題となるだろう。

またセミナーのインパクトは、過去に実施した PELSTE2020 も含めて継続的に評価していく必要がある。広島の平和教育と授業研究に関する理解の深まりとともに、それらの批判的な受容や発信、行動等をフォローしていく必要がある。さらに、本セミナーが最終目標に掲げる研究者の国際的ネットワーク化及び国際共著論文の執筆については、それを支援する体制づくりを検討したい。

本セミナーの開催に当たっては、EVRI のスタッフと教育学部に多大なご支援をいただいた。また、以下の方々には、資料収集と動画編集等で多大なご協力をいただいた。ここに記

して深謝いたします。

- ・磯村美菜子（広島大学大学院教育学研究科・博士課程前期）
- ・奥村 尚（広島大学大学院教育学研究科・博士課程前期）
- ・吉田純太郎（広島大学教育学部・学部4年）

（草原和博*・木下博義・三好美織・小山正孝・川口広美・金 鍾成・岩田昌太郎・丸山恭司・吉田成章・桑山尚司・宮本勇一・小松真理子・草原和博）

【註】

- 1) 人物の選定では、時間と予算の制約から、ジェンダーや文化的・社会的背景に偏りが生じた。次年度以降の動画開発で、語りの多様性をさらに追究したい。
- 2) EVRI 研究プロジェクト叢書の No.1 には、「HiGA（広島県立広島叡智学園）平和教育への挑戦」の教科書プロジェクトの成果が所収されている。

【文献】

Jongsung Kim, Kazuhiro Kusahara (2020). What is the Lasting Impact of the Use of Nuclear Weapons During WWII in Japan?, *Inquiry-Based Global Learning Based on the C3 Framework in the K-12 Social Studies Classroom*, Routledge, 139-154.

金鍾成（2020）。「他者の語りに開かれた市民を育てる：「広島平和記念資料館の『The last 10 feet』再デザイン」プロジェクトと「より良い『ヒロシマ』教科書づくり」プロジェクトを事例に」教育哲学研究，第 122 号，pp.12-18。

草原和博・木下博義・松宮奈賀子・川合紀宗・三好美織・小山正孝・影山和也・棚橋健治・川口広美・金鍾成・山元隆春・間瀬茂夫・永田良太・岩田昌太郎・井戸川豊・丸山恭司・吉田成章・森田愛子・桑山尚司・佐藤万知（2020）。「INEI 加盟大学と連携した授業研究・平和教育セミナー（1）：「PELSTE2020」の成果報告」広島大学大学院教育学研究科共同研究プロジェクト報告書，第 18 号，pp.39-47。

草原和博・守谷富士彦・小栗優貴・鈿悠介・宅島大堯・両角遼平・小野創太・久保美奈・奥村尚・孫玉珂・高松尚平・玉井慎也・真崎将弥・渡邊竜平（2021）。「平和の意味の再構築をめざす概念探究学習－広島叡智学園の未来創造科の実践を手がかりに－」学校教育実践学研究，第 27 卷，印刷中。